



みんなの ミュシャ

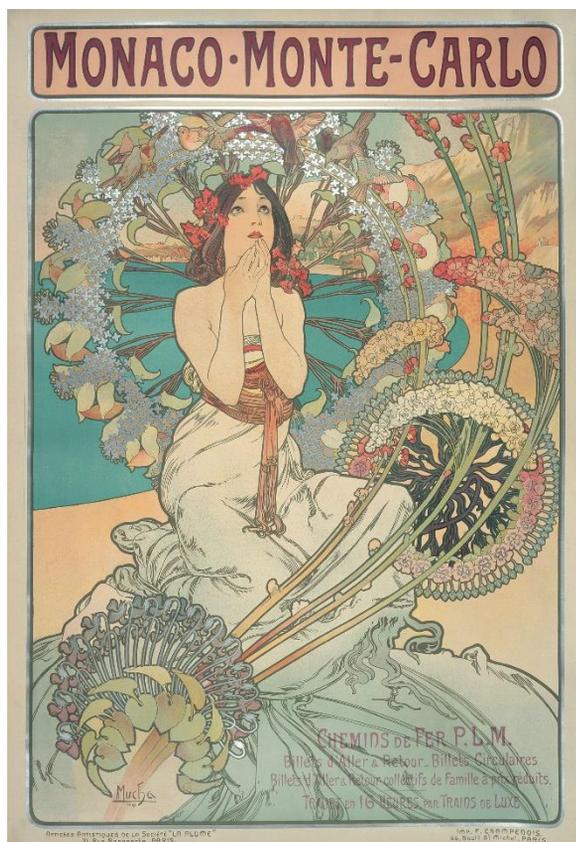
Timeless
Mucha to Manga—The Magic of Line

ミュシャからマンガへ —— 線の魔術

ミューズ
女神の魅惑は、永遠。

静岡県立美術館

2020年7月11日[土]→9月6日[日]



アルフォンス・ミュシャ《モナコ・モンテカルロ》1897年
カラーリトグラフ ミュシャ財団蔵 ©Mucha Trust 2020

アルフォンス・ミュシャ《舞踏一連作〈四芸術〉より》1898年
カラーリトグラフ ミュシャ財団蔵 ©Mucha Trust 2020

アルフォンス・ミュシャー—時代を超えて愛される芸術家。

◆開催情報

□**展覧会名** みんなのミュシャ ミュシャからマンガへ — 線の魔術
Timeless Mucha Mucha to Manga — The Magic of Line

□**会期** 2020年7月11日(土)—9月6日(日)

□**会場** 静岡県立美術館 (静岡市駿河区谷田53-2)

□**開館時間** 午前10時～午後5時30分 * 展示室への入室は午後5時まで

□**夜間開館** 8月8日(土)、15日(土)、22日(土)、29日(土)は午後7時まで開館

* 展示室への入室は午後6時30分まで

□**休館日** 毎週月曜日 * ただし、8月10日[月・祝]は開館

□**観覧料** 大人:1,400(1,200)円 70歳以上:700(600)円
高校・大学生:700(600)円 中学生以下:無料

* ()内は前売および20名以上の団体料金。前売券は7月10日(金)まで販売

* 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方と付添者1名は無料

* 収蔵品展・ロダン館も併せてご覧いただけます

□**主催** 静岡県立美術館、ミュシャ財団 、Daiichi-TV

□**後援** チェコ共和国大使館、チェコセンター、チェコ政府観光局 

□**協賛** 大成建設、光村印刷、損保ジャパン

□**静岡展特別協賛** **セキスイハイム東海**

□**協力** 日本航空、日本通運

□**企画協力** NTVヨーロッパ

□**チケット販売所** 【前売券は7月10日(金)まで販売】

[前売・当日券]

チケットぴあ、セブンイレブン(Pコード共通 685-216)、ローソンチケット、ミニストップ(Lコード共通 42273)、セブンチケット、CNプレイガイド(ファミリーマート)、静岡県立美術館

[前売券のみ]

大和文庫、戸田書店(江尻台店)、谷島屋(パルシェ店・マークイズ静岡店)、吉見書店(竜南店)、大丸松坂屋友の会、静岡県庁本館1階売店、静岡市美術館ミュージアムショップ、グランシップ、JR草薙駅前一部店舗

◆展覧会概要

いわば「線の魔術」の生み出す繊細で華麗な作品でアール・ヌーヴォーの時代を彩った芸術家、アルフォンス・ミュシャ（1860-1939）。そのスタイルは「ミュシャ様式」と呼ばれ、後世のアーティストに今なお影響を与え続けています。ミュシャ財団監修による本展は、ポスターなどのミュシャの華やかな作品はもとより、財団秘蔵のミュシャ旧蔵品や初期作品も交えて生涯にわたるその多彩な魅力に迫るとともに、影響を受けたさまざまなアーティストたちの作品も展示。約250点の作品により、今日まで続くミュシャ様式の流れをご紹介します。時代を超えて愛される芸術家の秘密を斬新な視点でひも解くこれまでにないミュシャ展。どうぞご期待ください。



◆略年譜

【参考写真】パリ、グランド・ショー・ミエールのアトリエにて（セルフポートレート）
1892年 ©Mucha Trust 2020

- 1860年 7月24日、オーストリア帝国支配下にあった南モラヴィア地方（現チェコ共和国東部）に生まれる。
- 1877年 裁判所の書記として働きつつ、デッサンに励む。
- 1879年 ウィーンに行き、舞台装置などを製作する工房で助手として働く。
- 1882年 ウィーンを去り、ミクロフへ行く。土地の名士達の肖像画で生計を立て、貴族のパトロンを得る。
- 1885年 パトロンの援助によりミュンヘン美術アカデミーの試験を受け、入学。
- 1887年 パリに出てアカデミー・ジュリアンに入学。
- 1893年 タヒチから帰国した旧知のゴーギャンと再会し、アトリエを共有。カメラを購入し、撮影を始める。
- 1894年 サラ・ベルナル主演の舞台のポスター《ジスモンダ》制作。翌年正月、パリ街頭に貼り出され、名声が一気に高まる。
- 1897年 2月、初個展。5-6月、サロン・デ・サンで2回目の本格的個展。
- 1898年 ウィーン分離派に参加。フリーメイソンのパリ支部会員となる。
- 1899年 ミュシャの挿絵、解説による『主の祈り』刊行。
- 1900年 パリ万国博覧会ポスニア=ヘルツェゴヴィナ館の装飾で銀賞受賞。
- 1901年 レジオン・ド・ヌール勲章受章。
- 1902年 パリで『装飾資料集』刊行。好評に応え、1905年、『装飾人物集』刊行。
- 1903年 パリで後の妻マルシュカ（マリ）・ヒティロヴァーに出会う。
- 1906年 5月、マルシュカとプラハの聖ロフ教会で結婚。秋、妻とともに渡米。
- 1908年 スメタナ作曲「わが祖国」を聴き、自らの芸術のすべてをスラヴの歴史と文化に捧げよう決意。
- 1909年 3月、娘ヤロスラヴァがニューヨークで生まれる。
- 1910年 故郷へ戻り、西ボヘミアのズビロフ城を借りて、アトリエと住まいにする。《スラヴ叙事詩》に着手。
- 1915年 3月、息子ジリがプラハで生まれる。
- 1918年 新国家チェコスロヴァキア共和国のために郵便切手や紙幣をデザイン。
- 1928年 プラハ市に居を移す。9月、《スラヴ叙事詩》全20点をプラハ市に寄贈すると発表。
- 1934年 レジオン・ド・ヌール勲章オフィシエ章受章。
- 1938年 肺炎を発症。
- 1939年 ドイツがチェコスロヴァキアに侵攻した際、ゲシュタポに逮捕される。5日間尋問された後、帰宅を許されるが、健康状態は悪化。7月14日、プラハにて死去。ヴィシエフラッド墓地に埋葬。

◆ 展覧会構成

□ 第1章 ミュシャ様式へのインスピレーション

アール・ヌーヴォー様式の典型となったミュシャ様式は、特定の美術運動や芸術理論から派生したものではありません。それは、祖国独立の夢を抱くチェコ人のミュシャが、ウィーン、ミュンヘン、そしてパリという国際文化都市で画家としての修行を積むうちに、新しい時代の息吹に感応して創り出した独自のデザインの形式でした。

本章はミュシャ財団に遺るミュシャのコレクションと蔵書、写真資料などで構成します。「美の殿堂」と呼ばれたミュシャのアトリエは、モラヴィアの工芸品や聖像、ロココ風の家具、日本や中国の美術工芸品などで飾られ、こうした多種多様な美がミュシャのインスピレーションとなっていました。ここでは、モラヴィアの少年時代からポスター画家として名声を築く1890年代までのミュシャの足取りを追いながら、ミュシャ様式の成立に寄与した様々な要素を検証します。



作者不詳《花鳥文様日本趣味の花瓶》
19世紀後半
金属素地にエナメルで絵付け
©Mucha Trust 2020

□ 第2章 ミュシャの手法とコミュニケーションの美学

ミュシャは基本的に「線の画家」です。正規の美術教育を受ける前の幼少期から青年期にかけての素描画に見られる、流麗な描線による日常と空想世界の描写は、のちに手がけるイラストやポスターに使われたリトグラフという版画技術による印刷表現には理想的なスタイルでした。それはまた、ジャポニズムを牽引した北斎などの日本の浮世絵師や、現代のマンガ家たちの表現法にも通じる要素です。

本章では、ミュシャのイラストレーターとしての仕事に光をあて、ミュシャが描線により、物語世界のエッセンスを読者にどのように伝えようとしたのか、その手法を考察します。ここで紹介する彼の仕事は1880年代にチェコの雑誌のために手がけた初期の作品から、アール・ヌーヴォーのグラフィック・アーティストとして手がけた本のデザインやイラスト、雑誌の表紙絵などとなります。

Timeless Mucha

Mucha to Manga - Magic of Line

5

Press Release 10/06/2020



【左】アルフォンス・ミュシャ
《風刺雑誌のための
ページレイアウト》

1880年代

インク・紙 ミュシャ財団蔵
©Mucha Trust 2020

【右】アルフォンス・ミュシャ
《『オー・カルティエ・ラタン』誌・表
紙(創刊6周年記念特別号)》1898
年

カラーリトグラフ ミュシャ財団蔵
©Mucha Trust 2020

□第3章 ミュシャ様式の「言語」

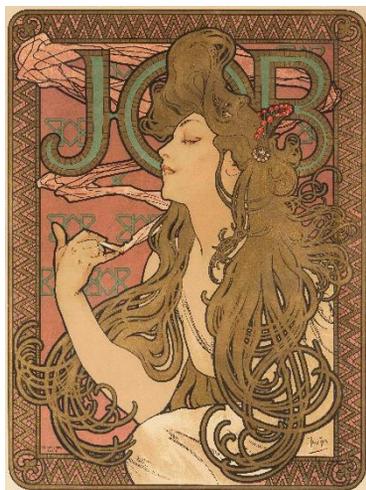
より多くの人々が幸福になれば、社会全体も精神的に豊かになるという考えを持つミュシャが生涯こだわり続けたのは、特権階級のための芸術至上主義的表現ではなく、常に民衆とともにあることでした。そのためにはイラストやポスター等の商業デザインは格好の手段です。普通の人々を美のもつ力で啓発するために、ミュシャは様々な手法を考案しました。エレガントな女性の姿に花などの装飾モチーフを組み合わせ、曲線や円を多用しながら構築された独特な構図の形式である「ミュシャ様式」は、画家が人々とコミュニケーションするための「言語」でした。

本章は、サラ・ベルナールのための劇場ポスターや装飾パネルを見ながらミュシャ様式が成立してゆく過程と、その背後にあるミュシャのデザイン理論を検証します。さらに、プラハ市立会館の壁画に光を当て、ミュシャ様式が祖国での作品の中でどう変化したかを考察します。



アルフォンス・ミュシャ
《連作〈四つの宝石〉—トパーズ、
ルビー、アメジスト、エメラルド》
1900年

カラーリトグラフ ミュシャ財団蔵
©Mucha Trust 2020



【左】アルフォンス・ミュシャ
《ジスモンダ》
1894年 カラーリトグラフ
ミュシャ財団蔵
©Mucha Trust 2020

【右】アルフォンス・ミュシャ
《ジヨブ》
1896年
カラーリトグラフ ミュシャ財団蔵
©Mucha Trust 2020

□第4章 よみがえるアール・ヌーヴォーとカウンター・カルチャー

ミュシャがパリを後にして58年、その死から24年の歳月を経た1963年、ロンドンのヴィクトリア&アルバート美術館でミュシャの回顧展がありました。それと同時進行で、二部に分けられたミュシャ展がロンドンの二つの画廊でも開催されました。冷戦のさなか、西側諸国ではミュシャの記憶は薄れ、パリ時代以降の作品は鉄のカーテンの彼方に埋もれたまま。しかし、この回顧展がロンドンで巻き起こした旋風は、忘れられていたチェコ人画家の業績を、再び光の下によみがえらせました。

これに即座に反応したのが、当時、既成の概念に対峙する若者文化の中心地となっていたロンドンとサンフランシスコのグラフィック・アーティストたちでした。ミュシャの異世界的イメージと独特の線描写は、特にサイケデリック・ロックに代表される形而上的音楽表現と共鳴するものがありました。一方、よみがえったミュシャ様式は、新世代のアメリカン・コミックにも波及し、その影響は今日まで続いています。



【左】アルフォンス・ミュシャ《椿姫》
1896年 カラーリトグラフ
ミュシャ財団蔵 ©Mucha Trust 2020

【中】デヴィッド・エドワード・バード《トリトン・ギャラリーでの個展—ダンディーとしてのセルフポートレート》1971年
オフセット・リトグラフ David Edward Byrd at Triton Gallery, Courtesy of David Edward Byrd

【右】スタンレー・マウス&オールトン・ケリー《ジム・クウェスキン・ジャグ・バンド・コンサート(1966年10月7-8日、アヴァロン・ボールルーム)》1966年頃
オフセット・リトグラフ

Artwork by Stanley Mouse and Alton Kelly. ©1966, 1984, 1994. Rhino Entertainment Company. Used with permission. All rights reserved.
www.familydog.com

□第5章 マンガの新たな流れと美の研究

与謝野鉄幹が主宰した『明星』第8号(1900年)の表紙を飾ったのは一條成美によるミュシャを彷彿とさせる挿絵でした。一條は『新声』に引き抜かれ『明星』の表紙は藤島武二が引き継ぐが、これを契機とするかのように明治30年代半ば、文芸誌や女性誌の表紙を時には全面的な引き写しを含め、ミュシャ、あるいはアール・ヌーヴォーを彷彿させる女性画と装飾からなるイラストレーションが飾ることになります。与謝野晶子の歌集『みだれ髪』の表紙デザインもこのミュシャ的装本の一つですが、重要なのはこれらの雑誌や書籍に用いられた言文一致体や、晶子が象徴する短歌は、近代の女性たちが、獲得したての近代的自我と自らの身体を「ことば」にした新しい表現だったということです。つまり近代の女性たちの内面と身体の表象として選ばれたのがミュシャ様式の女性画でした。それは『明星』から70年余りを経た1970年代、少女マンガの「絵」に再び導入するまでの、長い前史の始まりです。

ミュシャは近代の女性たちの内面と身体を表現するアイコンとして、この国の文化史の中にあるのです。



【上段左】アルフォンス・ミュシャ
《アカデミー・コラロッシ
(ミュシャ講座)》

1900年 カラーリトグラフ
ミュシャ財団蔵 ©Mucha Trust 2020



【上段右】表紙デザイン：藤島武二
『みだれ髪』(与謝野晶子)

東京新詩社と伊藤交友館により共同出版された与謝野晶子の第一歌集(明治34年)の復刻版(日本近代文学館1968年)
©Mucha Trust 2020



【下段】山岸凉子「黒のヘレネー」
(『花とゆめ』1979年9月11号扉用
イラスト/白泉社)

1979年 カラーインク・紙
©山岸凉子

アルフォンス・ミュシャ
《ヒヤシンス姫》

1911年
カラーリトグラフ ミュシャ財団蔵
©Mucha Trust 2020

◆グッズ付特別前売券 *5月18日(月)から販売、限定個数になり次第終了

人気作品《ヒヤシンス姫》を大胆にデザインした
特製ドリンクボトル付き特別前売券を販売！

価格：3,100円(税込)

販売所：ローソンチケット・ミニストップ
(Lコード共通：42273)



◆音声ガイド

本展オフィシャルサポーターの千葉雄大
さんをナビゲーターに、ミュシャ芸術の
秘密を読み解きます！

所要時間：約35分

当日貸出価格：600円(税込)

◆関連イベント * **新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から定員等に変更がございます。ご理解の程、お願い申し上げます。**

講演会・講座

□ **スペシャル対談** (会場: 静岡県立美術館講堂 事前申込制 無料 [ただし本展観覧券もしくは半券が必要])
定員220名⇒100名、応募多数の場合は抽選)

「ふたりのミュシャー—1900年と1972年」



* 本イベントは静岡県文化プログラムの一環としても開催

日時: 7月18日(土) 14:00~15:30

講師: 山田五郎氏 (編集者・評論家/本展オフィシャルサポーター) × 木下直之 (静岡県立美術館館長)

申込締切: 6月30日(火) 必着

申込方法: 当館ウェブサイト申込フォームまたは往復はがきにて。応募は2名様まで。

※往復はがき記載事項 ①氏名(参加人数分)、②郵便番号・住所、③電話番号、返信面に宛先を記入の上、静岡県立美術館「みんなの対談受付係」まで。

※抽選の如何にかかわらず結果は通知いたします。



山田五郎氏



木下直之

Timeless Mucha

Mucha to Manga—Magic of Line

10 Press Release 10/06/2020

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art

□ **記念対談**(会場: 静岡県立美術館講堂 先着順・申込不要 無料[ただし本展観覧券もしくは半券が必要])
定員250名⇒120名)

『みんなのミュシャ』ができるまで

日時: 8月22日(土) 14:00～15:30

講師: 佐藤智子氏(ミュシャ財団キュレーター/本展監修) × 三谷理華(静岡県立美術館学芸課長)

□ **館長美術講座**(会場: 静岡県立美術館講座室⇒講堂 先着順・申込不要 定員40名程度⇒120名)

「ミュシャの飛来——明治のふたつの戦争の間へ」

日時: 8月16日(日) 14:00～15:30

講師: 木下直之(静岡県立美術館館長)

□ **フロアレクチャー**(集合場所: 静岡県立美術館企画展第1展示室⇒1Fインフォメーションカウンター前
申込不要、定員有(10分前より整理券を配布いたします)、観覧料が必要です)

静岡県立美術館学芸員が別室にて解説を行います。

日時: 7月23日(木・祝)、8月8日(土)14:00～

8月15日(土)、8月29日(土)17:30～

実技体験講座

(会場: 静岡県立美術館実技室 いずれも定員制、要事前申込、要参加費[材料費実費と必要な場合の観覧料])

□ **わくわくアトリエ**「花や草木のフレーム模様を切り絵でデザインしよう」

講師: 福井利佐氏(切り絵作家)

日時: 7月26日(日) 1回目 10:00～12:30 2回目 13:30～16:00

対象: 小学生から大人まで(小学校3年生以下は保護者と参加して下さい)

□ **実技講座**「リトグラフ de ミュシャを模写」

講師: 柳本一英氏(銅版画家)

日時: 8月29日(土)・30日(日) 10:00～16:30

対象: 中学生以上の個人

■ **申込み方法など、詳しくは約1ヶ月前頃から、美術館ウェブサイトおよび館内配架チラシでお知らせします。**

ちょこっと体験講座

□ **「ちょこっとぬり絵」**(会場: 静岡県立美術館エントランス 申込不要 無料)

日時: 8月7日(金)～10日(月) 各日10:00～12:00 13:00～15:30

対象: どなたでもご参加いただけます。

■ **イベントはいずれも予定です。詳しくは展覧会公式サイトもしくは美術館ウェブサイトをご覧ください。**

Timeless Mucha

Mucha to Manga—Magic of Line

11 *Press Release 10/06/2020*

静岡県立美術館
Shizuoka Prefectural Museum of Art



同時開催の収蔵品展

□東京2020オリンピック・パラリンピック開催記念

「きらめく日本画」 6月30日(火)～7月12日(日)

「富士山をめぐる」 7月14日(火)～8月16日(日)

「激突！東西の狩野派」 8月18日(火)～9月13日(日)

次回展覧会

□「富野由悠季の世界展」 9月19日(土)～11月8日(日)

■お問い合わせ先

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 静岡県立美術館
学芸課担当(三谷)

Tel : 054-263-5857 Fax : 054-263-5742

総務課担当(金原・高柳)

Tel : 054-263-5755 Fax : 054-263-5767

ミュシャ展 担当宛 FAX : 054-263-5742 E-mail :muchaspmoa@gmail.com

【画像使用のお申込み方法】

「みんなのミュシャ展」広報用画像使用ご希望の際には、ご使用希望の本書式画像番号に丸を付け、媒体情報の欄すべてをご記入の上、上記 Fax 番号もしくはメールアドレスにお送りください。メールでお申込みの場合は、お手数ですが追ってお電話でご一報いただけますとより確実です（総務課 054-263-5755 もしくは学芸課 054-263-5857）。

【画像使用上の注意】

- * 画像は、本展の取材・告知を目的とする場合に限りご提供いたします。その他の用途に用いることは固くお断りいたします。またご使用後は速やかにデータを消去してください。
- * 各作品のタイトル等の表記は、下記の表の通りです。また、**画像と共にミュシャ財団ロゴの掲載も原則としてお願いいたします。**スペース等問題がある場合は、ご相談ください。
- * 画像のトリミング、文字のせはご遠慮ください。WEB 媒体に掲載の場合は、画像を 72dpi 以内に設定の上、コピーガードを施し、本展終了後は画像の削除をお願いします。
- * 作品タイトル等の確認をさせていただきますので、原稿が出来上がりましたら、ゲラを上記 Fax 番号もしくはメールアドレスに送付して下さい。なお、確認にはしばらくお日にちを頂戴する場合がございます。余裕をもってのご送付をお願いできれば幸いです。
- * ご掲載後は、**掲載誌 3 部**を以下にお送りください。WEB 媒体の場合は掲載 URL をお知らせください。
〒422-8002 静岡市駿河区谷田 53-2 静岡県立美術館 総務課 ミュシャ展担当者 宛

【ご提供する画像】

ご提供する画像は、以下の 3 点です。ご使用希望の画像の番号に丸を付けてください。3 点以上、あるいは別の作品画像の掲載をご希望の場合は、静岡県立美術館・ミュシャ展担当者まで、別途ご連絡ください。

番号	作家名・作品名・制作年・クレジット
1	パリ、グランド・シヨミエールのアトリエにて(セルフポートレート) 1892 年 ©Mucha Trust 2020
2	アルフォンス・ミュシャ 《モナコ・モンテカルロ》 1897 年 カラーリトグラフ ミュシャ財団蔵 ©Mucha Trust 2020
3	アルフォンス・ミュシャ 《ルビー—連作(四つの宝石)より》 1900 年 カラーリトグラフ ミュシャ財団蔵 ©Mucha Trust 2020

媒体情報 (すべてご記入ください。特に E-mail は、はっきりとわかりやすく書いてください。)

掲載誌名 : _____

発行日 : _____ 発行所 : _____

御社名 : _____

部署名 : _____ ご担当者名 : _____

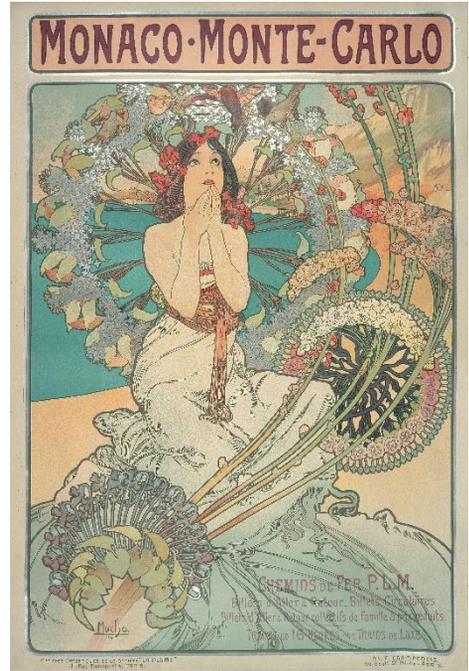
住所 : 〒 _____

電話 : _____ Fax : _____

E-mail : _____



①



②



③



【参考】 ミュシャ財団ロゴ